

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

北海道医報 (2015.3) 第1158号:30.

南アフリカ紀行-ワインとの出会い-

東 信良

南アフリカ紀行—ワインとの出会い

旭川医科大学医師会
旭川医科大学外科学講座 血管外科学分野

東 信良

長い長い飛行時間であった。羽田から12時間かけてドバイへ降り立ち、そこから10時間かけてケープタウンにたどり着いた。世界各国の血管外科代表が集まりガイドラインを話し合う重要な学会*がなぜか南アフリカ共和国で開催されることになり、西アフリカでのエボラ出血熱のニュースが流れる中、昨年10月のはじめ日本を後にした。アパルトヘイト撤廃を実現したマンデラ元大統領が亡くなってから、治安も急速に悪くなっているという。若手医局員を連れ立って、そうした逆風の中、長い飛行の末、ケープタウン空港に到着。二人の顔には不安と疲労が明らかであった。しかし、そこはきれいに整備され、あまりに安全そうで、空港から学会場があるステレンボッシュ (SB) へ向かう車中で、安心しきっていると、運転手から「右に見える無数の掘立小屋が有名なスラム街で、あそこにざっと100万人暮らしている」と聞いてぞっとした。無限にも思える果てしないスラム街の景色を後にし、SB郊外のホテルに到着。そこは安全を絵に描いたような場所。広大なブドウ畑とその中に点在する白壁のワイナリー、そして大陸がせり上がってできたという圧倒的な山々の景色がわれわれの疲れを癒してくれた (写真1)。

その景色もさることながら、そこで頂くワインの味は格別であった。毎日の夕食や懇親会で出てくるワインはことごとく美味で、しかも格段に安いことに驚いた。学会発表や理事会の準備に追われてSBがどういふところか勉強不足で現地入りしたが、実はそこはワインで世界的に有名な場所であった。私はお酒に関して知識も全然で、味もよく分かっていないとよく前教授にたしなめられている程度の人間であるが、血管を学ぶものとして赤ワインだけには興味があった。南アフリカにしかない赤ワイン用ブドウ品種があるのを皆さんはご存知でしょうか？

Pinot Noir (ピノ・ロワール) という品種は偉大なワインを生む有名な赤ワイン用ブドウ品種であるが、暑さや害虫に弱く、フランス・ブルゴーニュ地方以外でその真価を発揮しにくいとされている。そこで、このPinot Noirの品種改良に挑み、Pinot NoirとCinsaut (サンソー別名エルミタージュ) を交配させた中からPinotage (ピノタージュ) という品種を生み出したのが、ご当地SB大学の教授だという。つまり、そのご当地に居るということを恥ずかしながらそこで学んだわれわれは、学会の合間を見てはワインテイastingに出かけた (写真2)。SBには

250以上のワイナリーがあるという。結局、行く先々でワインを購入し、税関で非課税の3本を超えて、6本を日本に持ち帰ることになった。帰りの税関で、生まれて初めて「課税」と書かれた列に並んで、お札を用意して対応するお役人のはじき出す電卓の方を見つめていた。お役人は凄い。どうもすぐに値段が分かるらしい。結局、私が払った税金は540円であった。何せ、ワイナリーで一番おいしいワインを買ってもせいぜい2,000円程度である。

帰国後も南アフリカワインを楽しみに過ごしている。ネット通販でもリーズナブルな値段で手に入る。訪ねたワイナリーの名前を探しては、そのたまたまいや庭を思い出しながら通販で注文する楽しみができた旅であった。

ワイン好きの方も、あるいは、血管を若く保ちたい方も、ぜひ一度、南アフリカにしかないPinotage品種のワインをお試しあれ。他品種に比べてタンニンやアントシアニンが豊富で、非常に色が濃く、ベリーやスモーキーベーコンのような独特のフレーバーが楽しめると思いますよ。

* World Federation of Vascular Societies



写真1. ワイナリーの町・ステレンボッシュのホテルから見える風景



写真2. Spiaというワイナリーでワインテイastingを楽しむ筆者 (右) と内田大貴助教 (左)。天井からはワインボトルでできたシャンデリアが下がっている。